



平成 29 年 8 月 1 日
独立行政法人国立科学博物館

報道関係各位

**企画展「マリモ発見 120 年 マリモの謎—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—」
開催ならびにプレス内覧会実施のお知らせ**

国立科学博物館（館長：林良博）では、8月22日（火）から、**企画展「マリモ発見 120 年 マリモの謎—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—」**を開催いたします。

本企画展のオープンに先立ち **8月21日（月）**に、別添のとおり**プレス内覧会**を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

国立科学博物館は、8月22日（火）から10月9日（月）の期間で、**企画展「マリモ発見 120 年 マリモの謎—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—」**を開催いたします。

今年は、明治30年（1897年）8月23日に札幌農学校の川上瀧彌（かわかみたきや）が阿寒湖で毬のような球状で美しい藻を発見して120年目にあたります。翌年、この藻は川上によって東京植物学会の『植物学雑誌』で「毬藻（マリモ）」と名付けられ、それ以来数多くの生物学者が、マリモがどこから来たのか？（生物地理学的な起源）、そしてなぜ丸いのか？（球状化するメカニズム）の解明に挑んできました。本企画展は、これらの2つの謎についてマリモの実物や映像などにより近年の研究成果を紹介いたします。

また、現在絶滅の危機に瀕しているマリモを保全するために阿寒湖で取り組んでいる活動や、当館が山中湖で行っている研究調査についても紹介します。

つきましては展示のオープンに先立ち、**8月21日（月）15時～16時の間、プレス内覧会**を実施します。プレス内覧会では**展示解説**のほか**マリモ再生術の実演**も行います。取材・記事の掲載など本企画展の広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

【会 場】国立科学博物館（台東区上野公園 7-20）日本館地下1階多目的室

【開催期間】平成29年8月22日（火）～平成29年10月9日（月・祝）

【開館時間】午前9時～午後5時（8月～9月の金・土曜日は午後9時まで。10月6日（金）、10月7日（土）は午後8時まで。）

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：620円（団体310円）高校生以下および65歳以上無料※団体は20名以上）

【休 館 日】9月4日（月）、9月11日（月）、9月19日（火）、10月2日（月）

【主 催】独立行政法人国立科学博物館

【学術協力】釧路市教育委員会

【展示概要】別添の「展示概要」参照

【問合せ先】国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：鈴木崇宣

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9887、FAX：03-5814-9898、E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

企画展 マリモ発見 120 年 マリモの謎
—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—
プレス内覧会のお知らせ
平成 29 年 8 月 21 日（月）15 時～／国立科学博物館

国立科学博物館では、企画展「マリモ発見 120 年 マリモの謎—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—」の開催に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。

当日は、当館担当研究者による展示解説のほか、「マリモ博士」の若菜勇（釧路市教育委員会マリモ研究室・室長）によるマリモ再生術の実演も行います。この実演は、実際に破損したマリモを再生するために行うもので、空洞を有した球状マリモを半分に切断して構造をご覧いただいたのち、その破損部分の断片からの再生方法と、それによって再生して今回展示されている「マイマリモ」について説明を行う予定です。

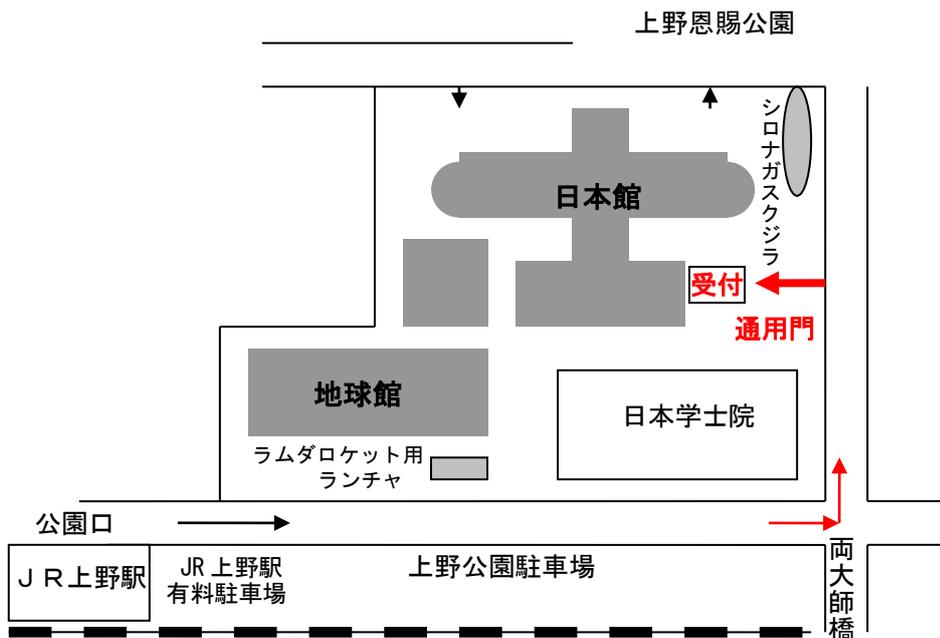
本展示は、保護一辺倒であったマリモ保全に新しい考え方をもたらすものと考えておりますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸甚です。

記

【日 時】 平成 29 年 8 月 21 日（月）15 時～16 時（受付開始 14 時 30 分～）

【会 場】 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7-20）

【受付場所】 国立科学博物館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。
<交通のご案内> JR 上野駅公園口から徒歩 5 分、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分、京成電鉄上野駅から徒歩 10 分 ※駐車場の用意はございません。



当日のスケジュール

14時30分～

15時～16時

受付開始（受付場所：事務棟入口 ※通用門からお入りください）

展覧会内覧（会場：日本館地下1階多目的室）

- ・ 展示監修者（当館植物研究部・北山、辻）が展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします。
- ・ 「マリモ博士」の若菜勇が、破損した空洞マリモを用いた「マリモ再生術」の実演（10分程度）を行います。
- ・ 展示室内の撮影が可能です。

展示監修者等のプロフィール



国立科学博物館植物研究部菌類・藻類研究グループ 研究主幹 北山 太樹（きたやま たいじゅ）

専門は海藻学。世界に例をみないほど多様な暖流・寒流が流れる日本沿岸の海藻相を解明するため、北は北海道から南は小笠原まで、素潜りやドレッジなどで海藻を採集調査している。最近では小笠原沖で褐藻ウミタンポポを発見し、調査を継続中。当館の常設展示では、系統広場、日本の海藻、地球史ナビゲーターなどを企画している。



釧路市教育委員会マリモ研究室 室長 若菜 勇（わかな いさむ）

専門は、藻類学、保全生物学。絶滅が危惧される特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」の保全を目指し、国内外のマリモ湖沼を踏査して多様な生態の解明につくす一方、分子系統、光合成、培養等の研究を通じて、「マリモはなぜ阿寒湖にいるのか」、「マリモはなぜ阿寒で丸くなるのか」を探究中。



国立科学博物館植物研究部菌類・藻類研究グループ 研究主幹 辻 彰洋（つじ あきひろ）

専門は、微細藻類の分類および生態。各地の湖沼のプランクトンや付着藻類、なかでも冷水性のプランクトン珪藻の固有種を中心に研究している。マリモ関連では山中湖での学術調査と山中湖村立小学校や中学校での出前授業を継続して行っている。

マリモ発見120年

マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

展示概要

今年は、

1897年（明治30年）8月23日に

阿寒湖を訪れた札幌農学校の川上瀧彌（かわかみたきや）が、
毬のような球状で美しい藻を発見して120年目にあたります。

翌年、この藻は川上によって「毬藻（マリモ）」と名付けられ、東京植物学会の

『植物学雑誌』に発表されました。以来、数多くの生物学者が、マリモがどこから来たのか
（生物地理学的な起源）そしてなぜ丸いのか（球状化するメカニズム）の解明に挑んできました。

本展示では、この記念の年に、これら2つの謎について近年の研究で明らかにされた成果をマリモの
実物や生態映像で紹介いたします。また、現在絶滅の危機に瀕しているマリモを保全するために阿寒湖で
取り組んでいる活動や、当館が山中湖で行っている研究調査を紹介します。

展示構成

第1章 マリモの発見

120年前の夏、川上瀧彌はいかにしてマリモと出会ったか？

第2章 第1の謎 マリモはどこから来たのか？

マリモは淡水にすむ緑藻ですが、海藻のグループであるアオサ藻類から進化
しました。遺伝的な研究によって世界中に分布するマリモの故郷が日本とそ
の周辺であるらしいことが分かってきました。

第3章 第2の謎 マリモはなぜ丸いのか？

マリモの神秘的な丸さは、阿寒湖の絶妙な水の動きが作りだしています。
湖底でマリモが回転する様子を紹介します。

第4章 マリモの未来

マリモは、絶滅の危機に瀕しています。阿寒湖では、マリモを
未来に残すための保全活動を行っています。
その1例として「マイマリモ」事業を紹介します。

第5章 国立科学博物館の取り組み

当館が行っている、山中湖のマリモを調査し、
保全するための研究調査を紹介します。

マリモ講演会
開催決定！

9.30（土）

10：00～12：00

詳しくはHPをご覧ください。
<http://www.kahaku.go.jp/>

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。
国立科学博物館ホームページの各種手続き・報道関係資料→写真・施設の貸出からお申し込みできます。
(<http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



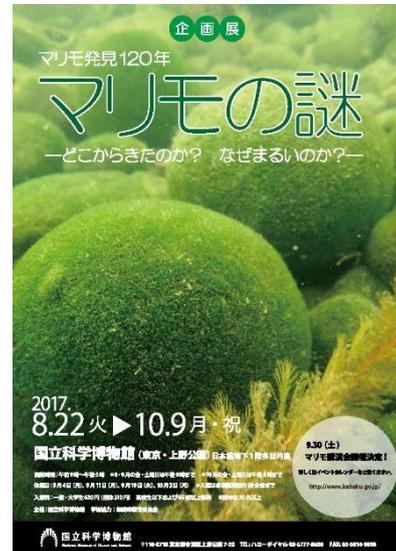
1.「阿寒湖の湖底に群生する球状マリモ」①
提供:若菜勇



2.「阿寒湖の湖底に群生する球状マリモ」②
提供:若菜勇



3.「巨大マリモ」
提供:若菜勇



4. 企画展「マリモの謎」チラシ

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・運営戦略課 園山千絵
電話 03-5814-9855 FAX 03-5814-9899
E-mail: shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

企 画 展

マリモ発見120年

マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

2017.
8.22 火 ▶ 10.9 月・祝

国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館地下1階多目的室

開館時間：午前9時～午後5時 *8・9月の金・土曜日は午後9時まで *10月の金・土曜日は午後8時まで

休館日：9月4日(月)、9月11日(月)、9月19日(火)、10月2日(月) *入館は各閉館時刻の30分前まで

入館料：一般・大学生620円(団体310円) 高校生以下および65歳以上無料 *団体は20名以上

主催：国立科学博物館 学術協力：釧路市教育委員会

9.30(土)

マリモ講演会開催決定!

詳しくはイベントカレンダーをご覧ください。

<http://www.kahaku.go.jp/>



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 TEL: ハローダイヤル 03-5777-8600 FAX: 03-5814-9898